

## 平成29年度第2回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「春の谷津田と里山の植物プラス西蓮寺の歴史について」を実施しました。

開催日時：平成29年4月22日（土）午前9時30分から午後3時20分まで

開催場所：行方市西蓮寺および行方市井上

参加者：44名

今年度最初の植物の自然観察会は、行方市西蓮寺から井上にかけての谷津田の植物観察をメインに西蓮寺の歴史についても学びました。

講師は植物の自然観察会ではいつもお世話になっている福田良市先生。また西蓮寺の建物や歴史についてはパートナーの腰塚さんと当センター沼澤篤が講師を担当しました。当日は銚田まちづくり推進会議自然環境部会の方々も多数参加してくださり、多くのみなさまと充実した観察会を行うことができました。

まず午前中は植物観察を行いました。西蓮寺境内には樹齢1,000年を超える茨城県指定天然記念物の大イチョウが2本あります。この2本は両方とも雄株で、幹の周りにはたくさんの雄花が落ちていました。続いて、西蓮寺から井上の谷津田を目指し、照葉樹の林内を下っていきました。常緑の葉に覆われた林床は薄暗く湿っていて、多くのシダ植物を見ることができました。初心者には見分けの難しいシダ植物ですが、孢子囊の付き方や子葉の形状などで区別ができるようになると面白くなってくるそうです。またマンリョウがきれいな赤い実を付けていました。谷津田に降りると、景観が開けて、まわりの落葉樹林の新緑と谷津田のコントラストが見事でした。田んぼの畔にはたくさんの春の植物をみることができました。とくに参加者のみなさんの印象に残った植物としては、オドリコソウやムラサキサギゴケの群落、蕾が筆のようなのでその名がついたフデリンドウなどが挙げられました。また花の咲く時期には見られないヒガンバナの葉も初めて見た方も多く印象に残ったようでした。他にカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサの形態の比較についても福田先生の丁寧なご説明とともに印象に残ったようでした。

昼食・休憩をはさんで午後は西蓮寺の建物や歴史について学びました。西蓮寺の宗派は天台宗で、最澄の高弟、最仙が782年に開山したと伝わる歴史のあるお寺です。前述の大イチョウのほかに山門と相輪櫓が重要文化財に木造薬師如来像が茨城県指定文化財に指定されています。相輪櫓は元寇の戦勝記念に建てられたこと、常行三昧会という僧侶が7日7夜、堂内を廻りながら立行誦経する大法要などが有名なことを学びました。また西蓮寺は霞ヶ浦を舞台にした映画「花蓮」のロケ地にもなった場所で、映画に出た穴の開いたケヤキの木で主人公のポーズをして記念撮影している方もいました。

福田先生には今年度も6月の自然観察会（涸沼での植物観察）をはじめ、植物の観察会にて講師をお願いすることになっています。たくさんの参加者のみなさまのおかげで充実した観察会を行うことができました。参加者のみなさん、福田先生、そして腰塚さんをはじめパートナーの皆さん、ありがとうございました。

観察した植物はおよそ120種類でした。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子と観察した植物の一部を御紹介します。



西蓮寺山門です。



境内の大イチョウ。



マンリョウの赤い実。



福田先生によるシダ植物の解説。



オドリコソウの群落。



映画「花蓮」？



ムラサキサギゴケ群落。



谷津田の風景。



相輪樫(左)。



常行三昧会について、パートナー腰塚さんから説明して頂きました。